

福井いきいき会設立3周年記念

福井いきいき会 3年3か月の歩み



福井いきいき会
平成28年10月

三周年を記念してのご挨拶

福井いきいき会会長 福井康人

一生勉強、一生感動、一生青春。この言葉を福井いきいき会の合言葉として、地元福井新聞プリン欄に月一回の掲載により、おかげさまで元気な高齢者のみなさんが自主的に集まってこられるようになりました。

私自身、単なる孤独感から数人に話を持ち掛け、つまらない井戸端会議でストレスを解消したいと始めたこの会が、このように素晴らしい会になろうとは全く予想しませんでした。私は今年（2016年）4月に満80歳を迎えますが、最近つくづく永らえてよかったと実感しております。

晩年に向かったの勉強、感動、青春の合言葉は個人が求めても手に入るものではなく、いろんな体験を積まれた皆さんが物欲も、しがらみも乗り越えて自由に人と触れ合うことにより、自分自身が心身ともに発揮されていく実感を味わうことだと信じております。

人生の方程式のように義務教育、家庭生活、仕事、子育てに追われ、老後を迎えた私たちがもう一度、お互いに貴重な体験をもとに楽しく語り合い、助け合い、慰め合いながら本音で生きた明かしの喜びを味わってもらいたいものです。本当に素晴らしい人たちが、お互いにオーラを出し合って会を盛り上げてくださっております。皆さんのご要望によって、各サークルが誕生し、若者以上にいきいきとした日々を送っておられます。側から見れば、ただ遊んでいるようにも見えますが、決してそうではありません。IT関連の不勉強とか、足腰の弱さ、あるいは記憶力の衰えは、多少影響してきますが、脳細胞は新たにお互いの好奇心に向かってより活性化し、相互に信頼性を増して、心豊かな晩年を送ることができると思います。私は今、会員の皆さんのお世話をするどころか、皆さんに沢山元気をいただいて毎日を暮らしております。

今回、3周年の記念冊子を発行するにあたり、全国の皆さんがこのような会に賛同され、自然な交流ができれば、高齢者の社会的な存在価値も評価されてくると思います。行政も、単なる高齢化を嘆いて補助対策を考えるだけでなく、健全な老後の在り方を考える私たちの意見に耳を傾け、医療費抑制、あるいは若者の生きる力のために貢献できれば、ありがたいと存じます。

本記念誌の発行について

福井いきいき会副会長 吉岡 芳夫

平成25年1月に、高齢者がいきいきと暮らす場の提供を目的として、一生勉強、一生感動、一生青春を合言葉に、福井いきいき会が誕生しました。

それから3年半の間に、本会は月1回の講演会（例会）をはじめ、18のサークル活動をおこなう大きな規模の会に発展しました。参加する高齢者は、孤独な生活から一転して、講演会やサークル活動に参加し、講演に耳を傾けて勉強し、あるいは自分に適したサークルに入って、新たな友達を作り老後を楽しみながら健康な生活を過ごしています。

福井いきいき会は、お金のかからない会とすることを基本方針とし、運営はすべて会員のボランティア活動で行っています。また、参加者からは入会金や、特別な参加費をとらない方針で発展してきました。このような会は、他の自治体においても高齢者の生活を豊かにすることに貢献できると考えています。

そこで、福井いきいき会が3年半を経過した今、3年3か月にわたる発展の経過、運営法、活動の詳細などをまとめて、記念冊子を発行することにいたしました。本冊子が、全国の自治体において高齢者の活躍、健康寿命の維持の参考になれば、幸いです。

なお、本冊子の発行については、三谷市民文化振興財団から、事業助成金の交付を受けたことを、申し添えます。



例会の様様 会場：アオッサ会



第3回新年会における記念写真



大学生を交えたよろず討論会討論会



おしゃべりランチの様子



第3回新年会の模様



福井アロハレイ・フラダンススタジオ 教師陣によるフラダンスの披露
(第3回新年会)



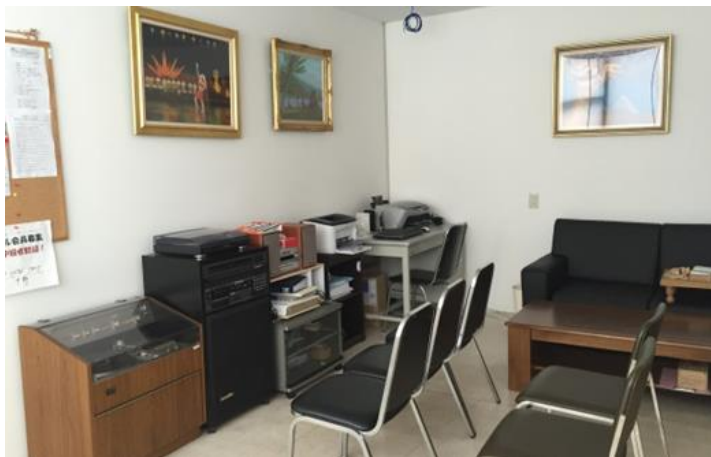
京都旅行
(平成27年6月9日)



福井駅前よろず茶屋 会議室



麻雀コーナー



音楽室

目次

1. 巻頭言 福井康人会長
2. 祝辞 拓殖大学名誉教授 田中一昭先生
福井県健康福祉部長寿福祉課 課長 船木麻央様
福井市地域包括ケア推進課 課長 小寺正樹様
3. 寄稿
4. 福井いきいき会の3年3か月の歩み
5. 福井いきいき会の組織と運営、
6. 活動詳細
 6. 1 例会の記録
 6. 2 サークル活動
 6. 3 旅行会
 6. 4 新年会
 6. 5 60歳からの主張 応募作品
7. 会員の声
8. まとめ